

乳幼児の歯みがき中の事故が多発しています！

乳歯が生えると始まる、歯磨きは大切な生活習慣として子どもたちに歯磨きを身につけさせようと頑張っているお母さんもいると思いますが、口の中に歯ブラシが刺さるという思わぬ危険が潜んでいます。

特に多いのは、1歳から3歳前半までの乳幼児で、1歳児だけで全体の半数、2歳児を含めるとおよそ75%に上りますので、歯ブラシを使うときには十分ご注意ください。

お母さんたちは、歯ブラシについて
「丸くなっているのに、そんなに痛くないし、安全にできているものだと」
と持っているようですが・・・

★以下の点に注意しましょう★

☆目を離さないようにしましょう！

事故は、歩いていて転倒したり、人や物にぶつかったり、踏み台などからの転落で起きています。保護者の方は目を離さないようにしてください。



☆長い歯ブラシを子どもの身近におかないようにしましょう！

長い歯ブラシや親が使う歯ブラシを、子どもの手の届くところに置かないでください。死亡事故の報告はありませんが、長さや刺さる角度によっては、脳に達するおそれがあります。

☆安全対策品を使いましょう！

事故を防ぐ対策をとった商品も販売されています。持ち手に「つば」をつけることで、先端がのどに届かないようにしているものや、持ち手をリング状にして、口の中に深く入らないようにしているものなどがあります。3歳までは安全性の高い歯ブラシを選び、保護者が必ず見守りましょう。



☆歯磨きは短時間でも可！

子どもの歯磨きで大事なものは、まずは習慣です。子ども自身はきれいには磨けませんが、虫歯予防のためには親が仕上げ磨きを行いますので、あまり長い時間磨かなくても十分だということです。その際には、「気持ちいいね」、「きれいになったね」などと、楽しそうに、そして褒めながらやると、歯磨きを嫌いにならないようです。



☆もし歯みがき中に歯ブラシが折れたら！！

折れた歯ブラシがのどの奥に残っていないか、破片にも気をつけてください。

気付かずそのままにすれば、やがて炎症を起こして腫れ、重症化すれば、腫れた部分が気道をふさぎ窒息するおそれもあります。

お口の中を切ると唾液と混ざり大量の出血と思いが慌ててしまいますが、落ち着いて近隣の歯科医院、または口腔外科を受診してください。

事故のない楽しい歯磨き習慣を！